

宿 泊 約 款

（適用範囲）

- 第1条** 当ホテルが宿泊客との間で締結する宿泊契約及びこれに関連する契約は、この約款の定めるところによるものとし、この約款に定めのない事項については、法令等（法令又は法令に基づくものをいう。以下同じ。）又は一般に確立された慣習によるものとし、
- 2 当ホテルが、法令及び慣習に反しない範囲で特約に応じたときは、前項の規定にかかわらず、その特約が優先するものとします。

（宿泊契約の申し込み）

- 第2条** 当ホテルに宿泊契約の申し込みをしようとする者は、次の事項を当ホテルに申し出ていただきます。
- （1） 宿泊者名
 - （2） 宿泊日及び到着予定時刻
 - （3） 宿泊料金（原則として別表第1の基本宿泊料による。）
 - （4） その他当ホテルが必要と認める事項
- 2 宿泊客が、宿泊中に前項第2号の宿泊日を超えて宿泊の継続を申し入れた場合、当ホテルは、その申し出がなされた時点で新たな宿泊契約の申し込みがあったものとして処理します。

（宿泊契約の成立等）

- 第3条** 宿泊契約は、当ホテルが前条の申し込みを承諾したときに成立するものとします。ただし、当ホテルが承諾しなかったことを証明したときは、この限りではありません。
- 2 前項の規定により宿泊契約が成立したときは、宿泊期間（4日を超えるときは4日間）の基本宿泊料を限度として当ホテルが定める申込金を、当ホテルが指定する日までに、お支払いいただきます。
- 3 申込金は、まず、宿泊客が最終的に支払うべき宿泊料金に充当し、第6条及び第18条の規定を適用する事態が生じたときは、違約金に次いで賠償金の順序で充当し、残額があれば、第12条の規定による料金の支払いの際に返還します。
- 4 第2項の申込金を同項の規定により当ホテルが指定した日までにお支払いいただけない場合は、宿泊契約はその効力を失うものとします。ただし申込金の支払期日を指定するに当たり、当ホテルがその旨を宿泊者に告知した場合に限ります。

(申込金の支払いを要しないこととする特約)

第4条 前条第2項の規定にかかわらず、当ホテルは、契約の成立後同項の申込金の支払いを要しないこととする特約に応じることがあります。

2 宿泊契約の申し込みを承諾するに当たり、当ホテルが前条第2項の申込金の支払いを求めなかった場合及び当該申込金の支払期日を指定しなかった場合は、前項の特約に応じたものとして取り扱います。

(施設における感染防止対策への協力の求め)

第4条の2 当ホテルは、宿泊しようとする者に対し、旅館業法(昭和23年法律第138号)第4条の2第1項の規定による協力を求めることができます。

(宿泊契約締結の拒否)

第5条 当ホテルは、次に掲げる場合において、宿泊契約の締結に応じないことがあります。ただし、本項は、当ホテルが旅館業法第5条に掲げる場合以外の場合に宿泊を拒むことがあることを意味するものではありません。

- (1) 宿泊の申し込みが、この約款によらないとき
- (2) 満室(員)により客室の余裕がないとき
- (3) 宿泊しようとする者が、宿泊に関し、法令の規定、公の秩序若しくは善良の風俗に反する行為をするおそれがあると認められるとき
- (4) 宿泊しようとする者が、次のイからハに該当すると認められるとき
 - (イ) 暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律(平成3年法律第77号)第2条第2号に規定する暴力団(以下「暴力団」という。)、同条第2条第6号に規定する暴力団員(以下「暴力団員」という。)、暴力団準構成員又は暴力団関係者その他反社会的勢力
 - (ロ) 暴力団又は暴力団員が事業活動を支配する法人その他の団体であるとき
 - (ハ) 法人でその役員のうち暴力団員に該当する者があるもの
- (5) 宿泊しようとする者が、他の宿泊客に著しい迷惑を及ぼす言動をしたとき
- (6) 宿泊しようとする者が、旅館業法第4条の2第1項第2号に規定する特定感染症の患者等(以下「特定感染症の患者等」という。)であるとき
- (7) 宿泊に関し暴力的要求行為が行われ、又は合理的な範囲を超える負担を求められたとき(宿泊しようとする者が障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律(平成25年法律第65号。以下「障害者差別解消法」という。)第7条第2項又は第8条第2項の規定による社会的障壁の除去を求める場合は除く。)
- (8) 宿泊しようとする者が、当ホテルに対し、その実施に伴う負担が過重であって他の宿泊者に対する宿泊に関するサービスの提供を著しく阻害するおそれのある要求として旅館業法施行規則第5条の6で定めるものを繰り返したとき

- (9) 天災、施設の故障、その他やむを得ない事由により宿泊させることができないとき
- (10) 各都道府県条例の規定する場合に該当するとき

(宿泊契約締結の拒否の説明)

第5条の2 宿泊しようとする者は、当ホテルに対し、当ホテルが前条に基づいて宿泊契約の締結に応じない場合、その理由の説明を求めることができます。

(宿泊客の契約解除権)

第6条 宿泊客は、当ホテルに申し出て宿泊契約を解除することができます。

- 2 当ホテルは、宿泊客がその責めに帰すべき事由により宿泊契約の全部又は一部を解除した場合（第3条第2項の規定により当ホテルが申込金の支払期日を指定してその支払いを求めた場合であって、その支払いにより前に宿泊客が宿泊契約を解除したときは除きます。）は、別表第2に掲げるところにより、違約金を申し受けます。ただし、当ホテルが第4条第1項の特約に応じた場合にあつては、その特約に応じるに当たって、宿泊客が宿泊契約を解除したときの違約金支払義務について、当ホテルが宿泊客に告知したときに限ります。
- 3 当ホテルは、宿泊客が連絡をしないで宿泊日当日の午後9時（あらかじめ到着予定時刻が明示されている場合は、その時刻を2時間経過した時刻）になっても到着しないときは、その宿泊契約は宿泊客により解除されたものとみなし処理することがあります。

(当ホテルの契約解除権)

第7条 当ホテルは、次に掲げる場合においては、宿泊契約を解除することがあります。

ただし、本項は、当ホテルが旅館業法第5条に掲げる場合以外の場合に宿泊を拒むことがあることを意味するものではありません。

- (1) 宿泊客が宿泊に関し、法令の規定、公の秩序若しくは善良の風俗に反する行為をするおそれがあると認められるとき、又は同行為をしたと認められるもの。
- (2) 宿泊客が次のイからハに該当すると認められるとき
 - (イ) 暴力団、暴力団員、暴力団準構成員又は暴力団関係者その他の反社会的勢力
 - (ロ) 暴力団又は暴力団員が事業活動を支配する法人その他の団体であるとき
 - (ハ) 法人でその役員のうち暴力団員に該当する者がいるとき
- (3) 宿泊客が他の宿泊客に著しい迷惑を及ぼす言動をしたとき
- (4) 宿泊客が特定感染症の患者等であるとき
- (5) 宿泊に関し暴力的要求行為が行われ、又は合理的な範囲を超える負担を求められたとき（宿泊客が障害者差別解消法第7条第2項又は第8条第2項の規定による社会的障壁の除去を求める場合は除く。）

- (6) 宿泊客が、当ホテルに対し、その実施に伴う負担が過重であって他の宿泊者に対する宿泊に関するサービスの提供を著しく阻害するおそれのある要求として旅館業法施行規則第5条の6で定めるものを繰り返したとき
 - (7) 天災等不可抗力に起因する事由により宿泊させることができないとき
 - (8) 各都道府県条例の規定する場合に該当するとき
 - (9) ホテル内での喫煙（指定された喫煙所における喫煙を除く。）、消防用設備等に対するいたずら、その他当ホテルが定める利用規則の禁止事項(火災予防上必要なものに限る。)に従わないとき
- 2 当ホテルが前項の規定に基づいて宿泊契約を解除したときは、宿泊客がいまだ提供を受けていない宿泊サービス等の料金はいただきません。

(宿泊契約解除の説明)

第7条の2 宿泊客は、当ホテルに対し、当ホテルが前条に基づいて宿泊契約を解除した場合、その理由の説明を求めることができます。

(宿泊の登録)

第8条 宿泊客は、宿泊日当日、当ホテルのフロントにおいて、次の事項を登録していただきます。

- (1) 宿泊客の氏名、住所及び連絡先
 - (2) 外国人にあっては、国籍、旅券番号、入国地及び入国年月日
 - (3) その他当ホテルが必要と認める事項
- 2 宿泊客が第12条の料金の支払いを、クレジットカード、優待券等通貨に代わり得る方法により行おうとするときは、あらかじめ、前項の登録時にそれらを呈示していただきます。

(客室の使用時間)

第9条 宿泊客が当ホテルの客室を使用できる時間は、午後3時から翌日午前11時までとします。ただし、連続して宿泊する場合には、到着日及び出発日を除き、終日使用することができます。

2 当ホテルは、前項の規定にかかわらず、同項に定める時間外の客室の使用に応じることがあります。この場合には次に掲げる追加料金を申し受けます。

- (1) 超過2時間までは、室料金の3分の1（又は室料相当額の30%）
- (2) 超過4時間までは、室料金の2分の1（又は室料相当額の50%）
- (3) 超過4時間以上は、室料金の全額（又は室料相当額の100%）

(利用規約の遵守)

第 10 条 宿泊客は、当ホテルにおいては、当ホテルが定めてホテル内に掲示した利用規則に従っていただきます。

(営業時間)

第 11 条 当ホテルの主な施設等の営業時間は備え付けのパンフレット、各所の掲示、客室内のサービスディレクター等でご案内いたします。

2 営業時間は、必要やむを得ない場合には臨時に変更することがあります。その場合には適当な方法をもってお知らせします。

(料金の支払い)

第 12 条 宿泊客が支払うべき宿泊料金等の内訳は、別表第 1 に掲げるところによります。

2 前項の宿泊料金等の支払いは、通貨又は当ホテルが認めた宿泊券、クレジットカード等これに代わり得る方法により、宿泊客の出発の際又は当ホテルが請求した時、フロントにおいて行っていただきます。

3 当ホテルが宿泊客に客室を提供し、使用が可能になったのち、宿泊客が任意に宿泊しなかった場合においても、宿泊料金は申し受けます。

(当ホテルの責任)

第 13 条 当ホテルは、宿泊契約及びこれに関連する契約の履行に当たり、又はそれらの不履行により宿泊客に損害を与えたときは、その損害を賠償します。ただし、それが当ホテルの責めに帰すべき事由によるものでないときは、この限りではありません。

2 当ホテルは、万一の火災等に対処するため、旅館賠償責任保険に加入しております。

(契約した客室の提供ができないときの取扱い)

第 14 条 当ホテルは、宿泊客に契約した客室を提供できないときは、宿泊者の了解を得て、できる限り同一の条件による他の宿泊施設をあっ旋するものとします。

2 当ホテルは、前項の規定にかかわらず他の宿泊施設のあっ旋ができないときは、違約金相当額の補償料を宿泊客に支払い、その補償料は損害賠償額に充当します。ただし、客室が提供できないことについて、当ホテルの責めに帰すべき事由がないときは、補償料は支払いません。

(寄託物等の取り扱い)

第 15 条 宿泊客がフロントにお預けになった物品又は現金並びに貴重品について、滅失、毀損等の損害が生じたときは、それが、不可抗力である場合を除き、当ホテルは、その損害を賠償します。ただし、現金及び貴重品については、当ホテルがその種類及び価額の明

告を求めた場合であって、宿泊客がそれを行わなかったときは、当ホテルは 5 万円を限度としてその損害を賠償します。

- 2 宿泊客が、当ホテル内にお持込みになった物品又は現金並びに貴重品であってフロントにお預けにならなかったものについて、当ホテルの故意又は過失により滅失、毀損等の損害が生じたときは、当ホテルは、その損害を賠償します。ただし、宿泊客からあらかじめ種類及び価額の申告のなかったものについては、当ホテルに故意又は重大な過失がある場合を除き、5 万円を限度として当ホテルはその損害を賠償します。

(宿泊客の手荷物又は携帯品の保管)

第 16 条 宿泊客の手荷物が、宿泊に先立って当ホテルに到着した場合は、その到着前に当ホテルが了解したときに限って責任をもって保管し、宿泊客がフロントにおいてチェックインする際にお渡しします。

- 2 宿泊客がチェックアウトしたのち、宿泊客の手荷物又は携帯品が当ホテルに置き忘れられていた場合において、その所有者が判明したときは、当ホテルは当該所有者に連絡をするとともにその指示を求めるものとします。ただし、所有者の指示がない場合又は所有者が判明しない場合は、発見日を含め 7 日間保管し、その後最寄りの警察署に届ける又は処分することとします。ただし飲食物・たばこ・雑誌等は即日処分します。

- 3 前 2 項の場合における宿泊客の手荷物又は携帯品の保管についての当ホテルの責任は、第 1 項の場合にあつては前条第 1 項の規定に、前項の場合にあつては同条第 2 項の規定に準じるものとします。

(駐車場の責任)

第 17 条 宿泊客が当ホテルの駐車場又は当ホテルの特約する駐車場をご利用になる場合、車両のキーの寄託の如何にかかわらず、当ホテルは場所をお貸しするものであって、車両の管理責任まで負うものではありません。ただし、駐車場の管理に当たり、当ホテルの故意又は過失によって損害を与えたときは、その賠償の責めに任じます。

(宿泊客の責任)

第 18 条 宿泊客の故意又は過失により当ホテルが被害を被ったときは、当該宿泊客は当ホテルに対し、その損害を賠償していただきます。

別表第1 宿泊料金等の内訳（第2条第1項及び第12条第1項関係）

		内 容
宿泊客が支払うべき総額	宿泊料金	内訳： ① 基本宿泊料（室料+朝食料） ② サービス料（①×10%）
	追加料金	内訳： ③ 追加飲食（朝食以外の飲食料）及びその他の利用料金 ④ サービス料（③×10%）
	税金	イ：消費税 ロ：宿泊税

【備考】

- 1 基本宿泊料は人数・季節・プランにより変わるため、その都度ホームページ参照料金によります。

別表第2 違約金（第6条第2項関係）

		契 約 申 込 人 数	
		個 人	団 体
		14名迄	15名以上
契約解除の通知をうけた日	不泊	100%	100%
	当日	100%	100%
	前日	50%	80%
	9日前		50%

京都ガーデンパレス利用規則

ホテルの公共性と安全性を確保するため、当ホテルをご利用のお客様は、下記の規則をお守りいただくことになっております。

この規則で禁じられた事項をお守りいただけないときは、当ホテルのご利用をお断りさせていただきます。

- (1) 客室を許可なしに宿泊以外の目的にご使用にならないこと。
 - (2) 廊下及び客室内で暖房用、炊事用などの火器をご使用にならないこと。
 - (3) 指定された喫煙場所以外で喫煙をなさらないこと。
 - (4) 高声放歌や喧騒な行為、その他、またお香を焚く等他人に嫌悪感を与えたり、迷惑を及ぼしたりすることのないこと。
 - (5) 館内に次のようなものをお持ち込みにならないこと。
 - (イ) 動物、鳥類。(盲導犬、介助犬などのアシスタントドッグは除く。)
 - (ロ) 悪臭及び著しく強い匂いまたは音を発するもの。
 - (ハ) 著しく多量な物品。
 - (ニ) 火薬や揮発油など、発火あるいは引火しやすいもの。
 - (ホ) 鉄砲、刀剣類。
- (6) 館内及び客室内で賭博及び風紀をみだすような行為をなさらないこと。
- (7) 外来客を客室に招いて、客室内の諸設備、諸物品などの使用をしたりなさらないこと。
- (8) 客室やロビーを事務所がわりに使用なさらないこと。
- (9) 館内及び客室内の諸設備、物品をその目的以外の用途に充てないこと。
- (10) 客室内の備品を外へ持ち出したり、ホテル内の他の場所に移動したりなさらないこと。
- (11) ホテルの建築物や諸設備に異物をとりつけたり、現状を変更するような加工をなさらないこと。
- (12) ホテルの外観をそこなうような物品を窓にお掛けにならないこと。
- (13) ホテル内での他のお客様に広告物を配布するような行為をなさらないこと。
- (14) 廊下やロビーなどに所持品を放置なさらないこと。
- (15) ホテル外から飲食物の出前をおとりにならないこと。
- (16) ご宿泊が4日以内であっても、50,000円を超えた場合や、ホテルから請求があったらお支払い下さること。
- (17) ご予定宿泊日数を変更なさる場合は、フロントに予めご連絡下さること。
- (18) ご予定宿泊日数を延長なさる場合は、ご宿泊料金のお勘定を全額お支払い下さること。
- (19) ご予約のない場合または宿泊当日及び宿泊前日のご予約は原則として前金をいただきます。
- (20) クロークでのお預かり物やお忘れ物の保管は特にご指定のない限り、ご出発後3ヵ月までとさせていただきます。
- (21) 浴衣・スリッパ等で、客室外の施設をご利用にならないで下さい。
- (22) 客室の電話、フロント等でお申し込みになられたコピー、ファクシミリのお代金には、若干の施設利用料が含まれます。